

平成 30 年 3 月 27 日

食品ロス削減の周知及び実践状況に関する調査の結果について



消費者庁では、関係省庁、地方公共団体や消費者団体を始めとする各種団体の皆様と連携し、食品ロス削減の推進に向けた取組を行っております。

この度、「食品ロス削減の周知及び実践状況に関する調査」を行い、その結果を取りまとめましたのでお知らせします。

【本件に関する問合せ先】

消費者庁 消費者政策課

担 当 : 戸川、坂井

電話番号 : 03-3507-9261 (直通)

FAX : 03-3507-7557

平成 29 年度
消費者の意識に関する調査
結果報告書

—食品ロス削減の周知及び実践状況に関する調査—

平成 30 年 3 月
消費者庁消費者政策課

【調査概要】

1. 調査目的

本調査は、不特定多数の消費者に対して、食品ロス削減の周知及び実践状況等について調査を行い、食品ロス削減に関する消費者の現状や求められる施策等を把握し、食品ロス削減に向けた施策検討及び消費者基本計画等の作成に資することを目的とする。

2. 調査対象

全国の満18歳以上の男女3,000人

※国勢調査（2015年）における性別、年齢、地域の比率を基に、調査実施機関に登録されているモニターから抽出。

3. 調査時期

2018年1月

〔平成28年度との比較にあつては、「平成28年度消費生活に関する意識調査結果報告書—食品ロス問題等に関する調査—」を用いた。調査対象及び調査方法は同一である。〕

4. 調査方法

インターネット調査

5. 調査項目

Q1：あなたは、「食品ロス」が問題となっていることを知っていますか。当てはまるものを1つお選びください。

Q2：あなたは、「食品ロス」を減らすために取り組んでいることはありますか。当てはまるものを全てお選びください。

Q3：「食品ロス」を減らすために取り組んでいる理由として、最も当てはまるものを1つお選びください。

Q4：あなたは、食生活の中で「もったいない」を意識したことはありますか。当てはまるものを全てお選びください。

Q5：あなたは、「食品ロス」を減らすために、今後どのように取り組もうと思いますか。当てはまるものを1つお選びください。

6. 調査実施機関

株式会社日本リサーチセンター

7. その他

(ア) Nとは、比率算出の基数を表すもので、原則として回答総数又は分類別の回答者数のことである。「複数回答」と記載のある質問は、複数回答を認めているため、回答した人の合計値はNを上回ることがある。

(イ) 百分比(%)は、小数点第二位で四捨五入し、小数点第一位までを算出した。そのため、比率の合計値が100%にならない場合がある。また、本文中の数値と図表の各項目の合計値が一致しない場合がある。

【調査結果】

1 食品ロス問題の認知度

食品ロスの問題を知っているか聞いたところ、「知っている」と回答した人が73.4%（「よく知っている」16.9%+「ある程度知っている」56.6%）であった。一方で「知らない」と回答した人が26.6%（「あまり知らない」18.5%+「全く知らない」8.1%）となっている。（図1-1）

平成28年度の調査結果と比較したところ、「知っている」と回答した人の割合が増加している。（図1-2）

図1-1 食品ロス問題の認知度

N=3,000

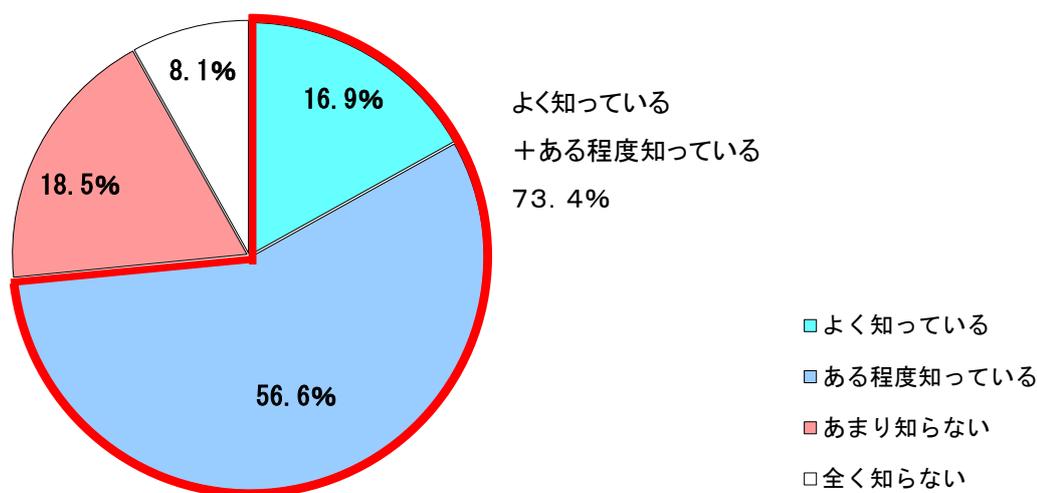
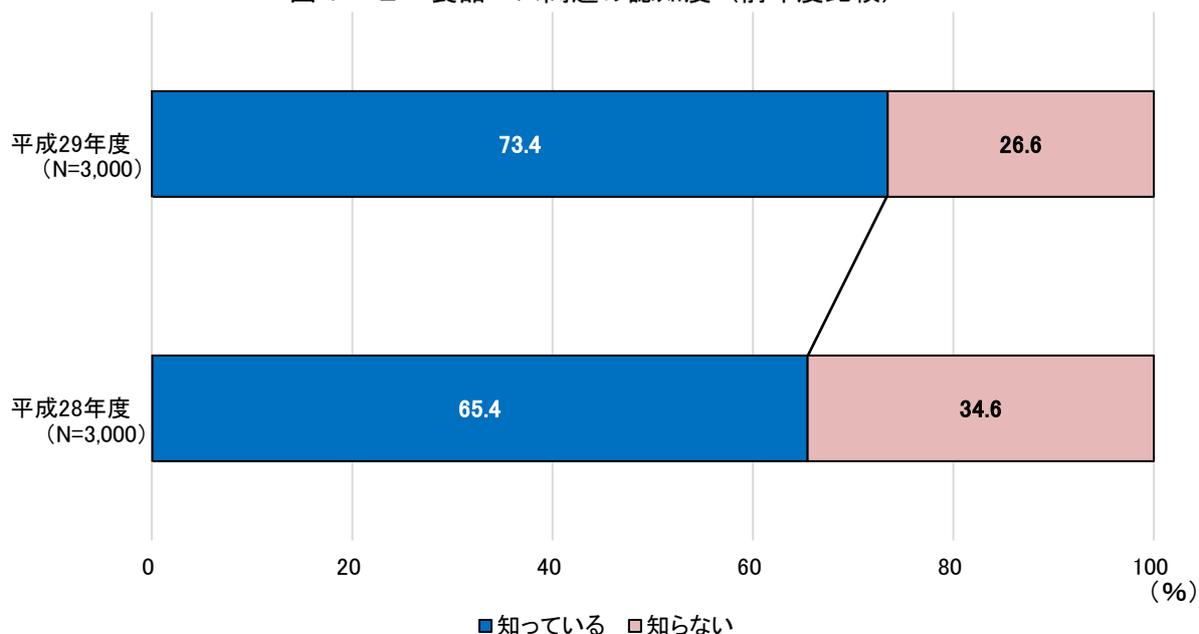
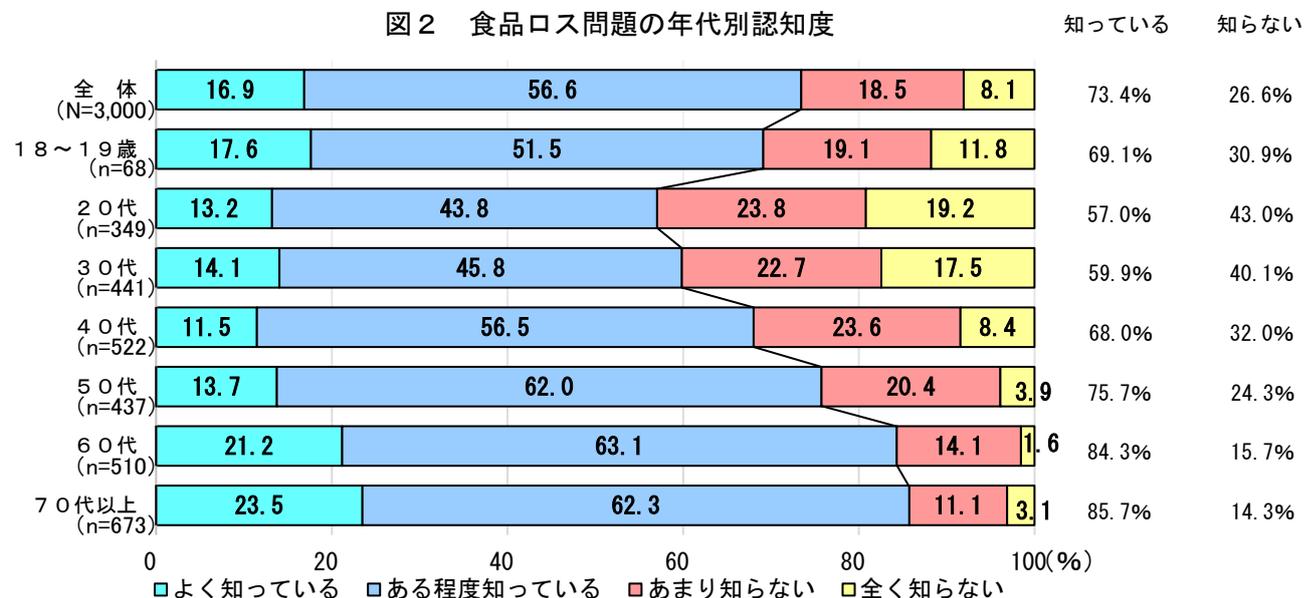


図1-2 食品ロス問題の認知度（前年度比較）



2 食品ロス問題の年代別認知度

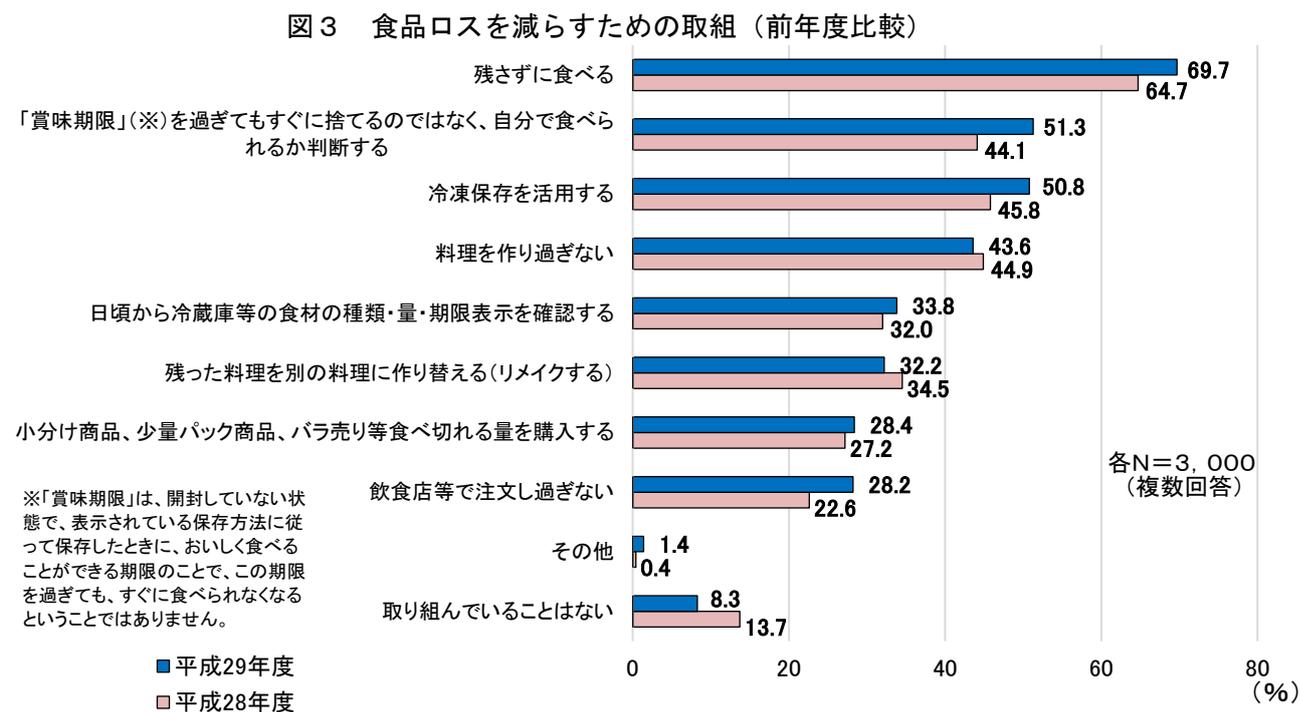
食品ロス問題の認知度を年代別に集計したところ、「知っている」と回答した人の割合が最も高かった年代は70代以上で85.7%（「よく知っている」23.5%+「ある程度知っている」62.3%）であった。一方で「知らない」と回答した人の割合が最も高かった年代は20代で43.0%（「あまり知らない」23.8%+「全く知らない」19.2%）となっている。（図2）



3 食品ロスを減らすための取組

食品ロスを減らすための取組について聞いたところ、「残さずに食べる」と回答した人が69.7%と最も多くなっている。一方で「取り組んでいることはない」と回答した人は8.3%にとどまっている。（図3）

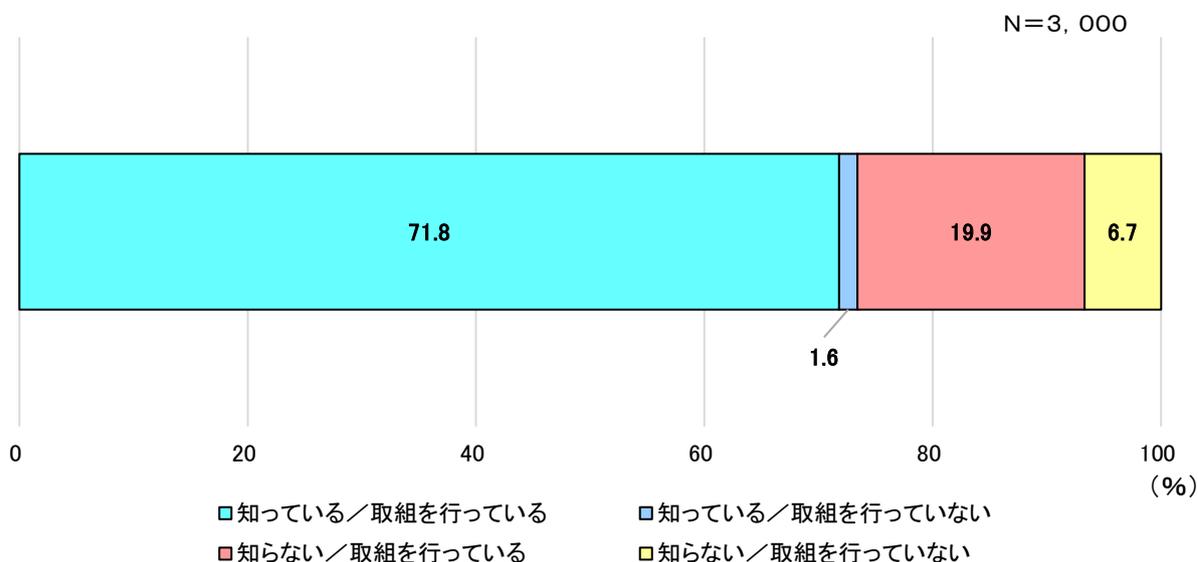
平成28年度の調査結果と比較したところ、「料理を作り過ぎない」、「残った料理を別の料理に作り替える（リメイク）」を除く取組で、回答した人の割合が増加している。（図3）



4 食品ロス問題を認知して食品ロス削減に取り組む人の割合

食品ロス問題を認知して食品ロス削減に取り組む人の割合を集計したところ、食品ロス問題を「知っている」と回答し、食品ロスを減らすための「取組を行っている」と回答した人は71.8%となっている。(図4)

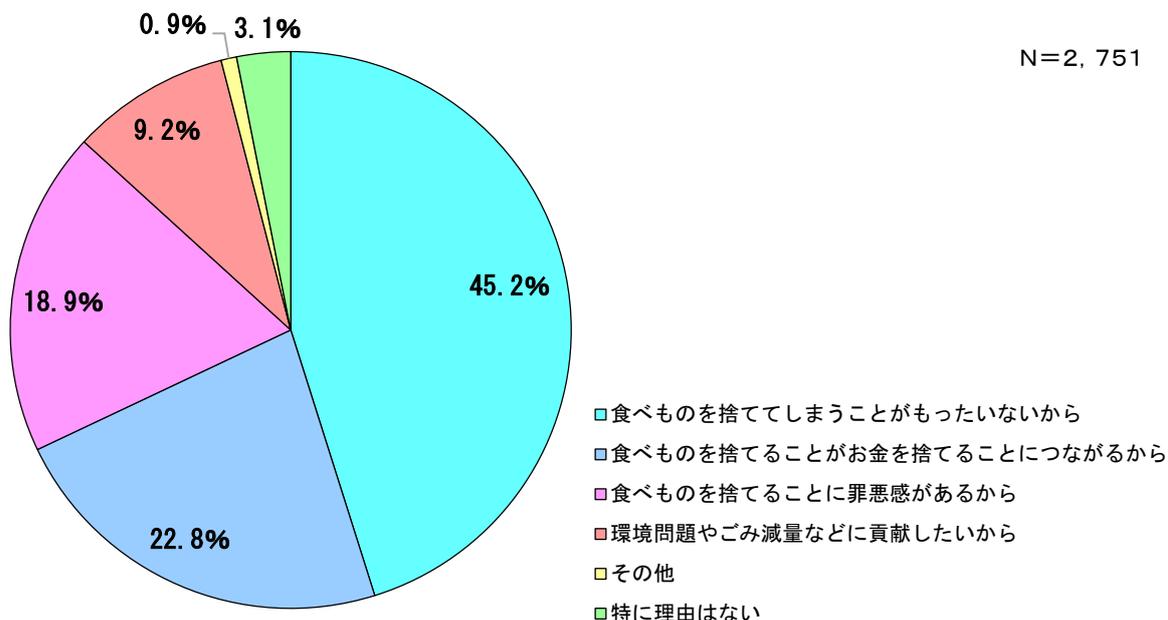
図4 食品ロス問題を認知し、食品ロス削減に取り組む人の割合



5 食品ロスを減らすための取組理由

食品ロスを減らすための取組を行っている人に、食品ロスを減らすための取組理由について聞いたところ、「食べものを捨ててしまうことがもったいないから」と回答した人が45.2%と最も多く、次いで「食べものを捨てることがお金を捨てることにつながるから」(22.8%)「食べものを捨てることに罪悪感があるから」(18.9%)の順となっている。(図5)

図5 食品ロスを減らすための取組理由



6 食生活の中で「もったいない」を意識した場面

食生活の中のどのような場面で「もったいない」を意識したことがあるか聞いたところ、「期限切れ等で食べずに捨ててしまうとき」と回答した人が56.2%と最も多く、次いで「レストラン等で他人の食べ残したのを見たとき」(50.3%)、「自分又は自分の家族等が食べ残したのを見たとき」(37.8%)の順となっている。(図6-1)

性別で集計したところ、「もったいない」を意識した全ての場面で、女性の割合の方が高くなっている。(図6-2) また、平成28年度の調査結果と比較したところ、「自分又は自分の家族等が食べ残したのを見たとき」、「ごみ(特に生ごみ)を捨てるとき」、「意識したことはない」と回答した人の割合が減少している。(図6-3)

図6-1 食生活の中で「もったいない」を意識した場面

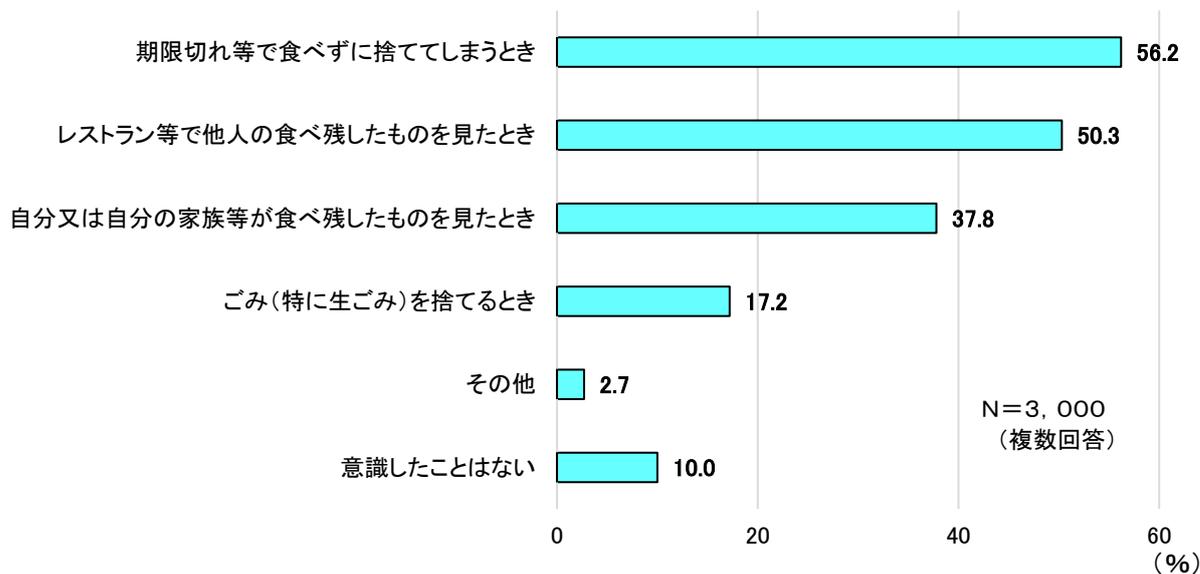


図6-2 食生活の中で「もったいない」を意識した場面(性別)

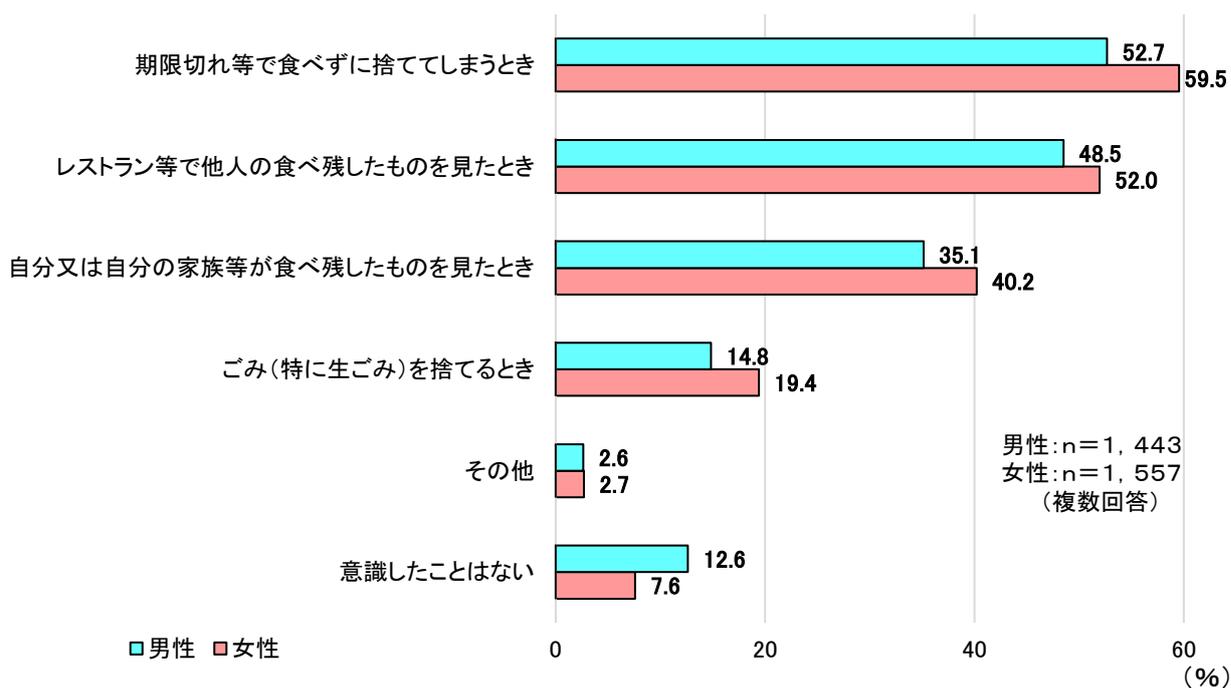
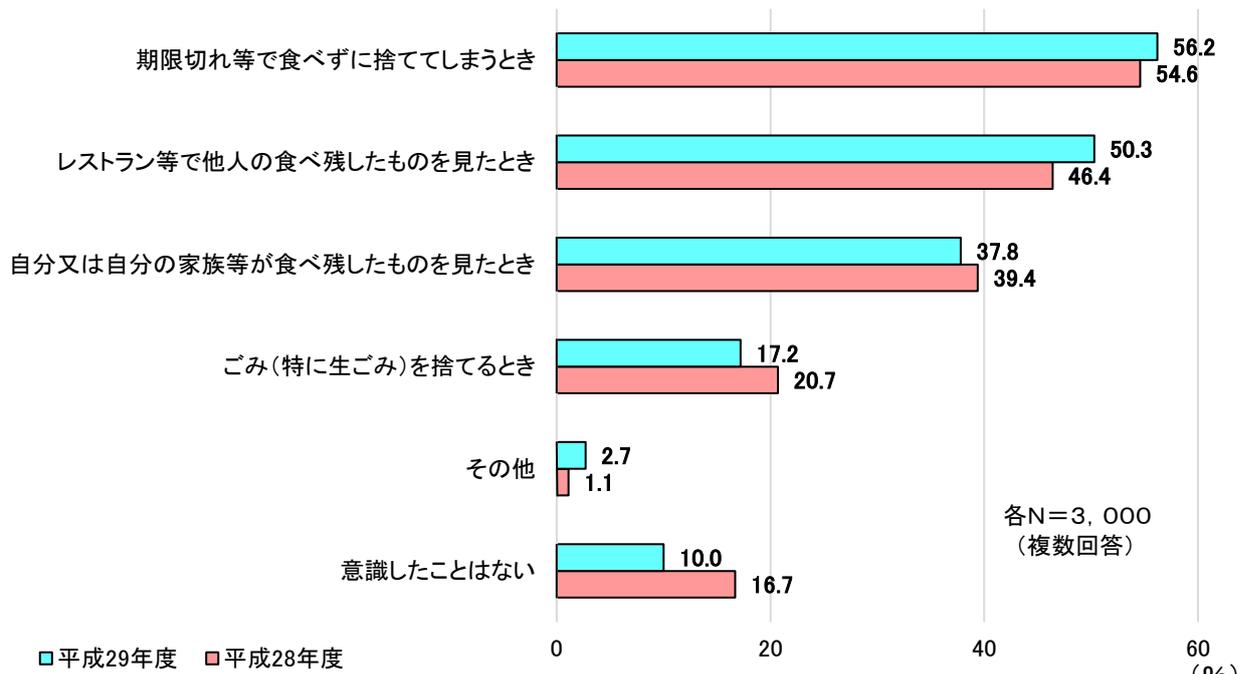


図 6-3 食生活の中で「もったいない」を意識した場面（前年度比較）



7 食品ロスを減らすための今後の取組

食品ロスを減らすための今後の取組について聞いたところ、「積極的に取り組んでいきたい」と回答した人が58.3%と最も多く、次いで「気がついたときに取り組んでいきたい」と回答した人が35.1%となっている。(図7-1)

年代別で集計したところ、「積極的に取り組んでいきたい」と回答した人が最も多かった年代は70代以上で70.3%であった。一方で「取り組まない」と回答した人が最も多かった年代は20代で16.3%となっている。(図7-2)

図 7-1 食品ロスを減らすための今後の取組

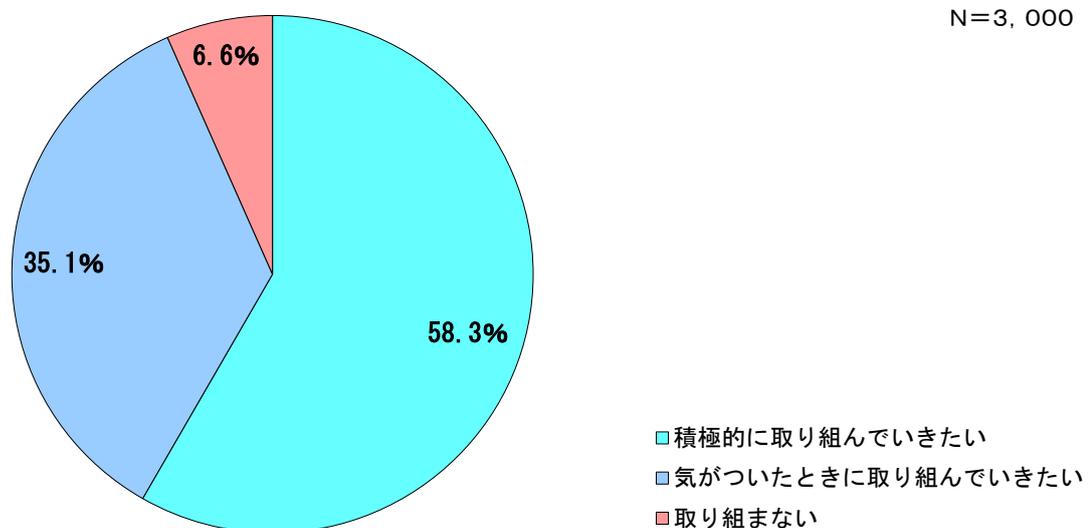
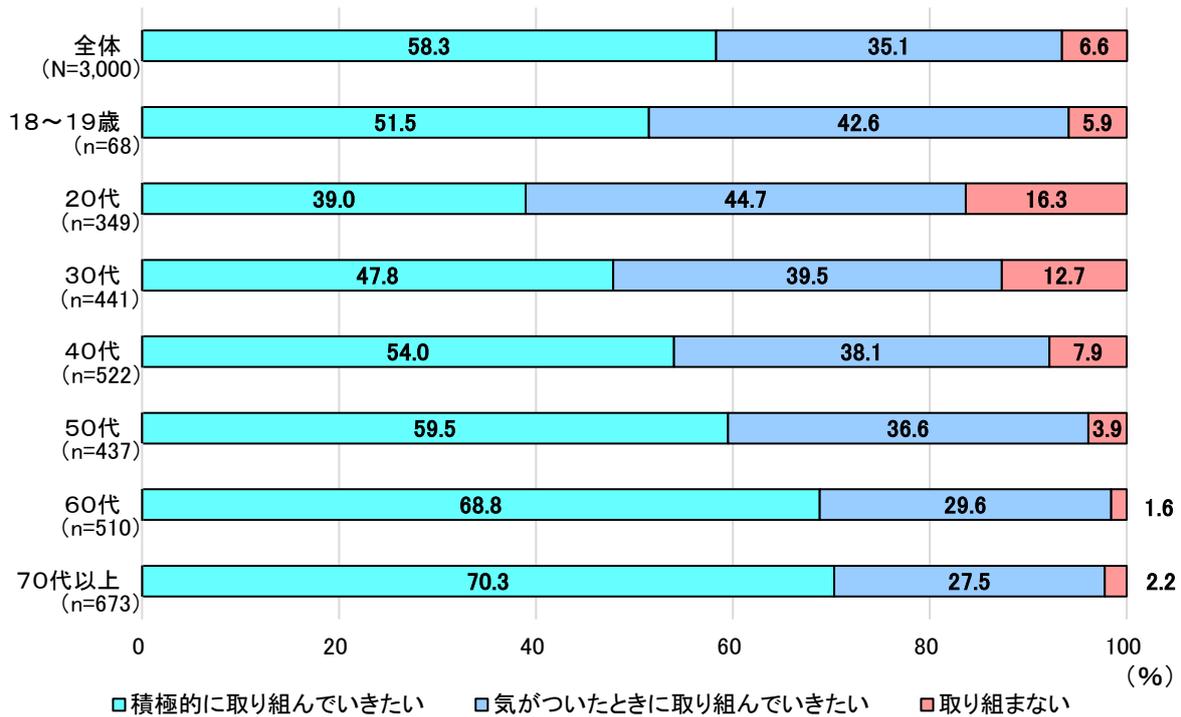


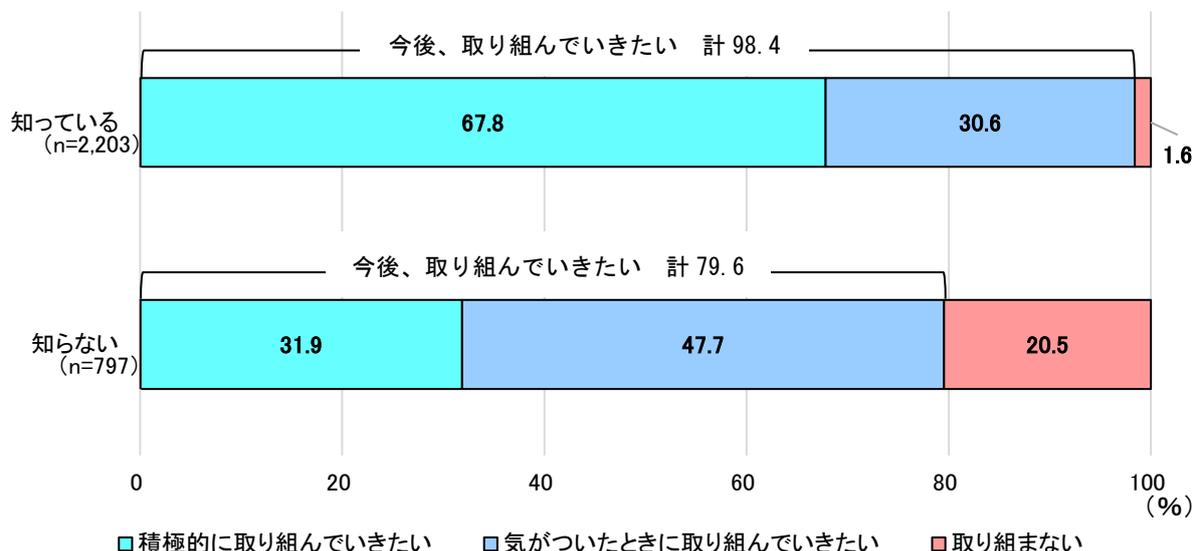
図 7-2 食品ロスを減らすための今後の取組（年代別）



8 食品ロス問題の認知度と、食品ロスを減らすための今後の取組との関係

食品ロス問題の認知度と、食品ロスを減らすための今後の取組との関係を集計したところ、食品ロスの問題を「知っている」と回答した人では、食品ロスを減らすために「今後、取り組んでいきたい」人が 98.4%（「積極的に取り組んでいきたい」67.8%+「気がついたときに取り組んでいきたい」30.6%）であった。一方で食品ロス問題を「知らない」と回答した人では、食品ロスを減らすために「今後、取り組んでいきたい」人が 79.6%（「積極的に取り組んでいきたい」31.9%+「気がついたときに取り組んでいきたい」47.7%）となっている。（図 8）

図 8 食品ロス問題の認知度と、食品ロスを減らすための今後の取組との関係



【調査票】

F.1 あなたの性別をお知らせください。

N=3,000

1) 男性	(48.1)	2) 女性	(51.9)
-------	--------	-------	--------

F.2 あなたの年齢をお知らせください。

N=3,000

1) 18 歳から 19 歳	(2.3)	5) 50 歳代	(14.6)
2) 20 歳代	(11.6)	6) 60 歳代	(17.0)
3) 30 歳代	(14.7)	7) 70 歳以上	(22.4)
4) 40 歳代	(17.4)		

F.3 あなたのお住まいをお知らせください。

N=3,000

1. 北海道	(5.8)	17. 石川県	(1.2)	33. 岡山県	(1.9)
2. 青森県	(1.0)	18. 福井県	(0.6)	34. 広島県	(2.2)
3. 岩手県	(0.3)	19. 山梨県	(0.4)	35. 山口県	(1.0)
4. 宮城県	(1.9)	20. 長野県	(1.8)	36. 徳島県	(0.7)
5. 秋田県	(0.6)	21. 岐阜県	(1.5)	37. 香川県	(0.9)
6. 山形県	(0.9)	22. 静岡県	(2.7)	38. 愛媛県	(1.2)
7. 福島県	(1.0)	23. 愛知県	(6.3)	39. 高知県	(0.2)
8. 茨城県	(0.9)	24. 三重県	(1.3)	40. 福岡県	(5.4)
9. 栃木県	(0.7)	25. 滋賀県	(0.5)	41. 佐賀県	(0.6)
10. 群馬県	(1.0)	26. 京都府	(2.5)	42. 長崎県	(0.8)
11. 埼玉県	(5.4)	27. 大阪府	(6.9)	43. 熊本県	(1.2)
12. 千葉県	(4.3)	28. 兵庫県	(4.5)	44. 大分県	(0.9)
13. 東京都	(13.7)	29. 奈良県	(1.3)	45. 宮崎県	(0.7)
14. 神奈川県	(8.0)	30. 和歌山県	(0.5)	46. 鹿児島県	(0.9)
15. 新潟県	(1.8)	31. 鳥取県	(0.3)	47. 沖縄県	(0.7)
16. 富山県	(0.7)	32. 島根県	(0.3)		

我が国では、食料の多くを海外からの輸入に頼っている一方で、推計（※）で年間約621万トンにのぼる「食品ロス」が発生しています。食品ロスとは、食べられるのに廃棄される食品のことで、食料資源の浪費や環境への負荷などの観点から問題となっています。

※ 平成 26 年度推計（農林水産省・環境省）

Q.1 あなたは、「食品ロス」が問題となっていることを知っていますか。

当てはまるものを1つお選びください。N=3,000

1) よく知っている	(16.9)
2) ある程度知っている	(56.6)
3) あまり知らない	(18.5)
4) 全く知らない	(8.1)

Q.2 あなたは、「食品ロス」を減らすために取り組んでいることはありますか。

当てはまるものを全てお選びください。N=3,000

1) 料理を作り過ぎない	(43.6)
2) 残さずに食べる	(69.7)
3) 残った料理を別の料理に作り替える（リメイクする）	(32.2)
4) 冷凍保存を活用する	(50.8)
5) 日頃から冷蔵庫等の食材の種類・量・期限表示を確認する	(33.8)
6) 「賞味期限」を過ぎてみすぐ捨ててではなく、自分で食べられるか判断する	(51.3)
7) 小分け商品、少量パック商品、バラ売り等食べ切れる量を購入する	(28.4)
8) 飲食店等で注文し過ぎない	(28.2)
9) その他	(1.4)
10) 取り組んでいることはない	(8.3)

Q.3 「食品ロス」を減らすために取り組んでいる理由として、最も当てはまるものを1つお選びください。N=2,751

1) 食べものを捨ててしまうことがもったいないから	(45.2)
2) 食べものを捨てることがお金を捨てることにつながるから	(22.8)
3) 食べものを捨てることに罪悪感があるから	(18.9)
4) 環境問題やごみ減量などに貢献したいから	(9.2)
5) その他	(0.9)
6) 特に理由はない	(3.1)

Q.4 あなたは、食生活の中で「もったいない」を意識したことはありますか。

当てはまるものを全てお選びください。N=3,000

1) 自分又は自分の家族等が食べ残したのを見たとき	(37.8)
2) レストラン等で他人の食べ残したのを見たとき	(50.3)
3) 期限切れ等で食べずに捨ててしまうとき	(56.2)
4) ごみ（特に生ごみ）を捨てるとき	(17.2)
5) その他	(2.7)
6) 意識したことはない	(10.0)

Q.4 あなたは、「食品ロス」を減らすために、今後どのように取り組もうと思いますか。

当てはまるものを1つお選びください。N=3,000

1) 積極的に取り組んでいきたい	(58.3)
2) 気がついたときに取り組んでいきたい	(35.1)
3) 取り組まない	(6.6)